
第1回エコ大学ランキング

報告書(速報版)

2009年9月15日

エコ・リーグ（全国青年環境連盟）
Campus Climate Challenge 実行委員会

■ エコ大学ランキング 2009 ■

■ 目的

私たち Campus Climate Challenge (CCC) 実行委員会は、環境問題を学び、活動を行う学生のネットワークです。大学の環境対策に学生として協力するため、各大学の温室効果ガス削減の現状を把握し、**情報発信・ネットワークの形成・調査結果のフィードバック**を行いたいと考えています。

大学の環境対策を点数化し、ランキングを作成します。そして、**ランキング上位の大学や先進的な取り組み**を行っている大学に関する**情報発信**を行います。

継続的に調査を実施することで大学間の情報共有や他大学の経費削減につながる**省エネルギーやユニークな取り組み**などを発信していきます。

その他にも ・理解促進・自然エネルギーの導入のための教育・普及ツールの作成と配布
・持続可能な大学を考え、ノウハウ共有を行うフォーラムの開催
等を通して、本調査の結果を活用していく予定です。

■ Campus Climate Challenge 実行委員会とは？

私たち CCC 実行委員会は、全国青年環境連盟（エコ・リーグ¹）を中心として、**大学の環境改善活動に関心のある大学の環境サークル・環境ゼミ**等のグループをメンバーとする組織です。現在、約 30 大学にメンバーがおります。

私たちは、学生の過ごす大学（キャンパス）を「**大きな実験室**」と捉え、大学が社会に率先して新技術・新システムを導入し、温暖化防止を促進することを目指しています。

国内外の様々な大学は、近年、持続可能なキャンパスづくりに向けて、多様な取り組みを始めており、学生もその取り組みに協力したいと思っています。その第一歩として、学生による大学の温室効果ガスの削減と持続可能なキャンパス作りを行い、その成果を広く社会へ発信する必要があると考えています。

そのために、**1) 温暖化防止に取り組む環境サークルの連携、2) 学生による省エネの促進、3) 温暖化防止に関する大学の事例調査**などを行っていきます。

なお、Campus Climate Challenge は以下の団体に協力、助成をいただいています。

協力：私立大学環境保全協議会

助成：Global Greengrants Fund、LRQA、東京ガス環境おうえん基金

¹全国青年環境連盟（エコ・リーグ）は、1994年に発足した環境NGOです。

エコ・リーグは、様々な環境問題を考え、行動する全国の学生や環境サークルをネットワークし、青年の環境活動全体を盛り上げることを目的としています。現在約 300 サークルをネットワークしています。

<http://portal.eco-2000.net/>

■ 調査概要

調査対象：国立大学 84 校 公立大学 74 校 私立大学 176 校 合計 334 校

実施時期：2009 年 5 月～7 月

調査手法：各大学の環境対策担当者にアンケート調査票を郵送する自記式アンケート調査

なお、キャンパスクライメイトチャレンジの参加学生が在籍する大学に対しては、直接担当者に持参した

返答数、有効回答数：

	送付数	返答数	有効回答数	有効回答率
全 体	334 校	109 校	107 校	32.0%
国 立 大 学	84 校	37 校	36 校	42.9%
公 立 大 学	74 校	29 校	29 校	39.2%
私 立 大 学	176 校	43 校	42 校	24.4%

国立大学 1 校、私立大学 1 校からアンケートに回答しない旨の返答あり

調査内容：「CO₂排出・エネルギー使用量」「実施している環境対策」「学生への教育」の大きく 3 つの部門に分けて調査を行った

点数配分を項目ごとに設定し、採点を実施

■ 結果概要

(1) ランキング（満点：125 点）

・国公立大学

1 位	岩手大学（岩手県）	107 点
2 位	九州工業大学（福岡県）	98 点
3 位	山形大学（山形県）	96 点

・私立大学

1 位	フェリス女学院大学（神奈川県）	87 点
2 位	郡山女子大学、短期大学部（福島県）	82 点
3 位	成蹊大学（東京都）	80 点

(2) 回答大学の内訳

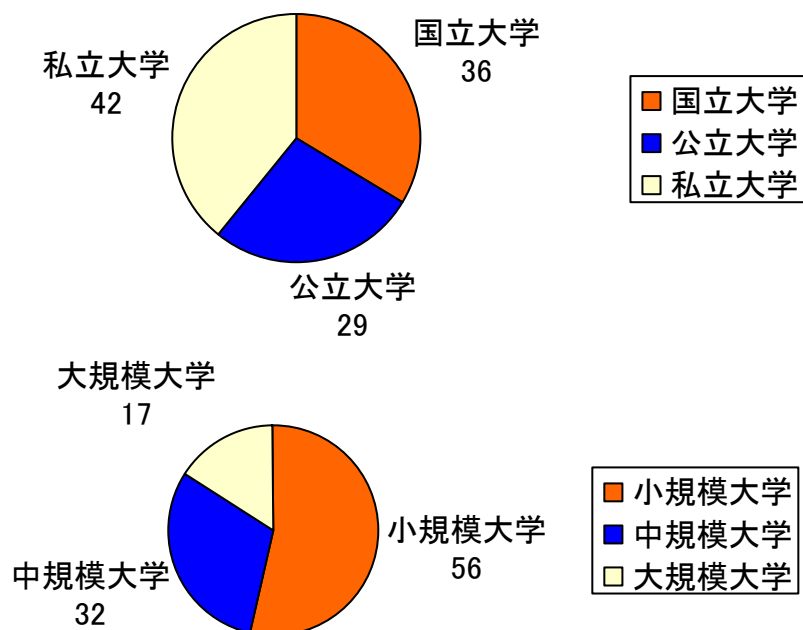
	小規模大学	中規模大学	大規模大学	不明	合 計
国立大学	12 校	15 校	9 校	0 校	36 校
公立大学	26 校	3 校	0 校	0 校	29 校
私立大学	18 校	14 校	8 校	2 校	42 校
合 計	56 校	32 校	17 校	2 校	107 校

大学の規模を調査表に記載された学生数で区分した

小規模大学：学生数 ～5,000 人

中規模大学：学生数 5,001 人～10,000 人

大規模大学：学生数 10,001 人～



(3) 二酸化炭素排出量

回答のあった 107 大学の 1 年間の二酸化炭素排出量の合計は約 130 万トンであった。これは、日本の 2007 年度二酸化炭素排出量 13 億トンの 0.1%を占めていることになる。

二酸化炭素排出量は全体では、増加傾向にあり、1 年間で約 1%増加していた。

(排出係数は、同一のものを使用しているため、純粋にエネルギー使用量が増加)

また、大規模校を除くと学生数とほぼ比例して排出量が増加する傾向があった。

(4) 自然エネルギー

自然エネルギーを活用している大学は 43 大学であり、全体の約 4 割であった。

そのほとんどが太陽光発電の活用である。

自然エネルギーの活用は国立大学のほうが私立大学よりも実施率が高かった。

◆太陽光発電

38 大学(国公立 28 大学(4 割)、私立大学 10 大学(4 分の 1))が導入。

ただし、啓発目的の設置で発電量がほとんどの 0 の大学から、

エネルギー源の 1 つとして積極的に利用しようとしている大学までさまざまであった。

◆風力

8 大学(国公立 4 大学(約 6%)、私立大学 4 大学(1 割))が導入していたが、太陽光発電と比べて導入はすすんでいなかった。

◆グリーン電力証書の購入

現時点で、グリーン電力証書を購入している大学はなく、普及していなかったが、今後検討していくと回答した大学はあった。

(5)環境対策

◆地球温暖化対策

省エネ型照明の導入や照明の自動制御、学生・教員への意識啓発、空調の適温化などは 8 割近くと多くの大学が実施していた。

一方で、屋上・壁面緑化の導入や学生・職員の見回りによる消灯、新築・改修の際に省エネ対策等の基準を設けている大学は 3 割前後と低かった。

ほとんどの項目で実施率に大きな差異はなかった。

規模が大きい大学ほど実施率が高い傾向にあった。

ただし、「学生・職員の見回りによる消灯」は規模の小さい大学ほど実施率が高かった。

◆環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムの運用では、ISO14001 を取得している 13 大学、エコアクション 21 が 2 大学であった。

◆対策に関する課題

校内での意識啓発や意思統一が難しい、資金の確保が難しいなどが課題として多く挙げられた。

また、規模が大きいほど校内での意識啓発や意思統一の難しいという回答する大学が、多かった。

(6)教育

◆学生への支援

約 3 割の大学が、環境対策に関して学生との意見交換の場を設けていた。

特に、大規模大学では 3 分の 2 が実施していた。

環境関連の会議への参加支援、留学支援、COP 等の国際会議参加に対する旅費等の援助など学生に対する支援の実施率は低く、1 割程度であった。

◆学生への意識啓発

ポスターや学内広報による呼びかけ は 7 割の大学が実施していた。

啓発イベントは大規模大学の実施率が 6 割と高いのに対して小規模大学は 1 割程度であった。

環境に関する授業を必須単位としている大学は、2 割弱にとどまった。

■ 調査結果をうけて

今回の調査を通して、全国的な大学の環境対策の概要を明らかにすることが出来たと考えている。

今後は、大学の環境対策の動向の調査を継続的に行っていくことで、大学において環境対策を行うための基礎的なデータを整備するとともに、大学における環境対策を更に促進するための一助となればと考えている。

調査に関する詳細な分析は、後日発行する本報告書に譲るが、本調査の結果に対する意見を簡単に述べる。

大学における二酸化炭素排出量は、前年度と比較すると増加している。

世界中で、地球温暖化対策の必要性が叫ばれ、日本は2020年に90年比で25%の温室効果ガス削減を目指すことを、民主党 鳩山氏が明言するなかで、将来を担う若い世代を輩出する大学において排出量が増加していることは、残念でならない。

学生の過ごす大学（キャンパス）を「**大きな実験室**」と捉え、大学が社会に率先して新技術・新システムを導入し、温暖化防止を促進しようという私たちの想いとは反対に、大学は社会に後れをとっているのではないかという思いを改めて抱いた。

しかし、予想以上に多くの大学が環境対策に取り組んでおり、今後に期待したい。特に、多くの企業でも行われている省エネルギーに関するハード面での取り組みは進んでいる。今後は、そのような対策を継続するとともに、大学それぞれの特色を生かしながら、ソフト面でも更なる環境対策を行ってほしいと願っている。

また、大学には将来を担う多くの学生が在籍している。半数以上の大学が学生に対する啓発活動を積極的に行っていると回答したが、これらの活動が、学生の意識の向上に繋がることを期待している。

大学は、企業と異なり、意思統一が難しく、学生・教員・職員など様々な主体が独立して活動を行っている。そのような中で、それぞれの主体が連携して、環境対策を実効性のあるものとして行うことは、社会全体に環境対策を広める際に大きな参考になる。ぜひ、大学における環境対策・意識啓発が社会のモデルなるようなものとなってほしいと思うとともに、大学の環境対策の担当者も社会に追いつき、追い越すような意識を持って対策に取り組んでほしい。

加えて、学生も大学が行っている環境対策に自分自身の問題として積極的に参画し、大学生活を通じて環境意識をより深めてもらいたい。

私たちは、環境意識をもった学生と大学の両者が協力してキャンパス内での環境活動や環境対策がより効果的に推進できるように、情報発信や意見交換を通じて多くの学生や大学とともに活動を行っていきたいと考えている。

最後となりますが、調査にご協力いただいた大学関係者の皆様に改めて御礼を申し上げます。

お問い合わせ先：

エコ・リーグ（全国青年環境連盟）内

Campus Climate Challenge 実行委員会

担当：福島

E-mail: ccc@eco-2000.net

WEB : <http://ccc.eco-2000.net/>

TEL : 03-5225-7206

FAX : 03-5225-7206